



2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年5月13日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東
 コード番号 3981 URL https://www.beagle.com
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平
 問合せ先責任者(役職名) 財務経理部長 (氏名) 阿久井 峻 (TEL) 03-6706-4000
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第1四半期の連結業績(2022年1月1日~2022年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	4,673	5.7	546	26.4	512	29.8	254	22.9
2021年12月期第1四半期	4,422	—	431	—	395	—	206	—

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 254百万円(22.9%) 2021年12月期第1四半期 206百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	42.63	42.23
2021年12月期第1四半期	34.84	34.36

(注) 前第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2021年12月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。また、当社は2020年12月期第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、2021年12月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	19,284	5,878	30.5
2021年12月期	19,458	5,671	29.1

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 5,878百万円 2021年12月期 5,671百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2022年12月期	—	—	—	—	—
2022年12月期(予想)	—	0.00	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当社の剰余金の配当は期末配当の年1回を基本方針としております。

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日~2022年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,224	△0.3	719	8.9	655	11.5	312	31.9	52.50
通期	18,791	0.8	1,536	14.2	1,416	17.8	695	56.3	116.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P8「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年12月期1Q	6,202,522株	2021年12月期	6,202,522株
2022年12月期1Q	243,228株	2021年12月期	243,228株
2022年12月期1Q	5,959,294株	2021年12月期1Q	5,930,388株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用したことによる影響はありません。

また、第9期第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前年同四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、ワクチン接種の普及や感染拡大防止対策が行われているものの、新たな変異株（オミクロン株）の感染拡大や原料価格高騰に加え、海外の不安定な政治動向の影響により先行きは依然として不透明な状況にあります。

コミックを中心とする電子書籍市場は、ユーザーの拡大及びユーザー平均購入量の増加が続いており、今後も電子書籍及び電子コミックの市場規模はゆるやかな拡大が続くことが予想されております。（出典：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2021」）

一方で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況が落ち着くにつれ、外出自粛の反動も見受けられるようになり、また、海賊版サイトの影響など市場拡大の阻害要因も一部にみられました。

このような市場環境の中で、プラットフォームセグメントにおいてはブランド構築に注力しつつ効率的な投資を、コンテンツセグメントにおいては継続的なデジタル成長による安定的な利益創出を実行しました。

さらに、コンテンツプロデュースカンパニーとしての機能強化や成長加速のため、2021年11月に資本業務提携契約を締結した日本テレビ放送網株式会社（以下、日本テレビ）との協業案件を推進いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,673,218千円（前年同期比5.7%増）、営業利益は546,008千円（前年同期比26.4%増）、経常利益は512,893千円（前年同期比29.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は254,037千円（前年同期比22.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスであるコミック配信サービス「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お得感を訴求するキャンペーンやブランディング活動に注力しました。「まんが王国」サイト内で展開しているポイント購入と消費の両方であわせて毎日最大50%還元されるポイントプログラムの常時実施のほか、お得感を訴求や幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。このように「まんが王国」は、お得感No.1（2022年4月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査で最もお得に感じるサービス第1位を獲得。）のコミック配信サービスとしてサイト内外で様々な企画を推進いたしました。

さらに、新たな「まんが王国」連載作品の配信や、テレビドラマ化したぶんか社作品「部長と社畜の恋はもどかしい」を限定特典付きで先行配信する等、“ここだから読める”作品の創出に注力いたしました。

この結果「まんが王国」は2022年2月に、累計ダウンロード数が17億冊、会員登録者数は600万人を突破いたしました。

また、日本テレビとの取り組みにおいては、同社が運営する2.5次元俳優のYouTubeチャンネル「ぼくたちのあそびば」のコミカライズ企画や、漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」の第2弾の放送決定等、クリエイターの発掘・育成・支援にも積極的に取り組みました。

これらの結果、当セグメントの売上高は3,078,030千円（前年同期比8.0%増）、営業利益は234,192千円（前年同期比234.7%増）となりました。

(コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、外出自粛の反動が一定あるものの、収益性の高いデジタルコンテンツが引き続き高成長を維持し、2022年3月末時点でデジタル比率65%と好調な業績を牽引しております。

昨年新たに創刊したデジタルコミック誌「PRIMOプリモ」「COMICヤミツキ」それぞれにおいてヒット作を生み出す等、コンテンツの創出に注力いたしました。

また、2022年1月には人気作品「義母と娘のブルース」を原作とした新年スペシャルドラマや、スマートフォン向けコミックサイト「マンガよもんが」にて連載中の「部長と社畜の恋はもどかしい」を原作としたテレビドラマが放送されるとともに、同年3月には、ぶんか社の公式YouTubeチャンネル「禁断書店」を開設し、「美醜の大地〜復讐のために顔を捨てた女〜」をはじめ人気漫画のセリフ付き動画配信を開始いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は1,637,452千円(前年同期比1.1%増)、営業利益は311,660千円(前年同期比14.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は19,284,350千円となり、前連結会計年度末に比べ174,063千円減少しました。

流動資産は8,222,428千円となり、前連結会計年度末と比べ46,511千円増加しました。これは主に、受取手形及び売掛金が226,888千円減少した一方で、現金及び預金が303,822千円増加したことによるものです。

固定資産は11,061,922千円となり、前連結会計年度末と比べ220,575千円減少しました。これは主に、無形固定資産が221,029千円減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は13,406,340千円となり、前連結会計年度末に比べ380,426千円減少しました。

流動負債は7,876,422千円となり、前連結会計年度末に比べ159,706千円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が138,900千円、預り金が106,993千円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金金が60,000千円、未払費用が161,351千円、未払法人税等が62,503千円、返金負債が92,591千円減少したことによるものです。

固定負債は5,529,917千円となり、前連結会計年度末と比べ220,719千円減少しました。これは主に、長期借入金金が175,000千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は5,878,010千円となり、前連結会計年度末に比べ206,362千円増加しました。これは、利益剰余金が206,362千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、30.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月14日の「2021年12月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,545,290	3,849,113
受取手形及び売掛金	4,371,699	4,144,811
商品及び製品	54,469	61,629
貯蔵品	1,058	1,017
前渡金	398	3,113
前払費用	69,083	50,158
未収入金	45,552	24,947
未収還付法人税等	98,976	105,877
その他	11,373	1,357
貸倒引当金	△21,985	△19,596
流動資産合計	8,175,916	8,222,428
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	62,827	62,827
工具、器具及び備品	145,112	151,464
減価償却累計額	△158,556	△163,678
減損損失累計額	△1,602	△1,602
有形固定資産合計	62,443	63,673
無形固定資産		
のれん	9,589,618	9,434,219
ソフトウェア	225,098	216,557
コンテンツ資産	435,148	419,413
ソフトウェア仮勘定	1,847	—
コンテンツ資産仮勘定	3,574	3,414
著作権	747,333	708,000
その他	1,332	1,320
無形固定資産合計	11,003,953	10,782,923
投資その他の資産		
敷金及び保証金	108,492	108,492
繰延税金資産	88,374	88,374
その他	19,234	18,458
投資その他の資産合計	216,101	215,325
固定資産合計	11,282,497	11,061,922
資産合計	19,458,414	19,284,350

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,056,896	3,195,797
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	820,000	760,000
未払金	357,802	345,801
未払費用	187,812	26,461
未払法人税等	333,806	271,303
未払消費税等	92,896	143,482
繰延収益	672,762	—
契約負債	—	628,081
返金負債	430,246	337,654
預り金	38,554	145,547
その他	45,350	22,292
流動負債合計	8,036,129	7,876,422
固定負債		
長期借入金	5,425,000	5,250,000
繰延税金負債	325,637	279,917
固定負債合計	5,750,637	5,529,917
負債合計	13,786,767	13,406,340
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,883,373	1,883,373
資本剰余金	1,882,873	1,882,873
利益剰余金	2,268,356	2,474,719
自己株式	△362,955	△362,955
株主資本合計	5,671,647	5,878,010
純資産合計	5,671,647	5,878,010
負債純資産合計	19,458,414	19,284,350

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年3月31日)
売上高	4,422,622	4,673,218
売上原価	2,804,821	2,972,876
売上総利益	1,617,801	1,700,341
販売費及び一般管理費	1,185,805	1,154,333
営業利益	431,995	546,008
営業外収益		
受取利息	14	11
受取返戻金	836	704
助成金収入	150	—
その他	296	438
営業外収益合計	1,296	1,153
営業外費用		
支払利息	35,855	31,857
融資手数料	2,405	2,400
その他	2	10
営業外費用合計	38,262	34,267
経常利益	395,029	512,893
特別損失		
損害賠償金	—	900
特別損失合計	—	900
税金等調整前四半期純利益	395,029	511,993
法人税、住民税及び事業税	188,396	257,956
法人税等合計	188,396	257,956
四半期純利益	206,632	254,037
親会社株主に帰属する四半期純利益	206,632	254,037

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	206,632	254,037
四半期包括利益	206,632	254,037
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	206,632	254,037

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年3月29日 定時株主総会	普通株式	47,674	8.00	2021年12月31日	2022年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、時価をもって四半期連結貸借対照表価額とする金融商品を保有しておらず、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、2018年3月30日に公表された「収益認識に関する会計基準」等については、2019年12月期の期首から適用しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「繰延収益」は、当第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-4項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,848,912	1,573,710	4,422,622	—	4,422,622
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	45,475	45,475	△45,475	—
計	2,848,912	1,619,185	4,468,098	△45,475	4,422,622
セグメント利益	69,976	362,855	432,832	△836	431,995

(注) 1. セグメント利益の調整額△836千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	2,837,515	—	2,837,515	—	2,837,515
他社配信	105,459	1,020,426	1,125,885	—	1,125,885
紙出版	—	469,148	469,148	—	469,148
その他	135,056	105,611	240,668	—	240,668
顧客との契約から生じる収益	3,078,030	1,595,187	4,673,218	—	4,673,218
外部顧客への売上高	3,078,030	1,595,187	4,673,218	—	4,673,218
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	42,264	42,264	△42,264	—
計	3,078,030	1,637,452	4,715,483	△42,264	4,673,218
セグメント利益	234,192	311,660	545,852	155	546,008

(注) 1. セグメント利益の調整額155千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な処理の確定

2020年10月8日に行われた株式会社NSSK-CC(2021年1月1日付で株式会社ぶんか社グループに商号変更)との企業結合について、前々連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ31,616千円減少し、四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が18,006千円減少しております。